

韋

韋の **彣** は、**止** で、止の反対の形です。(第3章足の項参照)。止は、**止** **𠂔** で、足の裏の象形です。**彣** を下向きにしたのが **𠂔** です。つまり、**彣** と **𠂔** とは足の向きが反対で、韋は、“すれちがう”が本義の字で違の本字です。部首としては“ちがう”“反対”という意味に使われます。音はイです。

違 は、“道を行く”という意味の **辵** と **韋** との会意形声字で、“行きちがう”“すれちがう”が本義の字です。今では、単に“ちがう”という意味に使われています。違反、違約、違算、¹ 違例。音は **韋** です。

偉 は、“ちがう”という意味の **韋** と **人** とで、普通の人とはちがった人、つまり、“えらい”人という意味を表わした会意形声字です。偉人、偉大、¹ 偉業。音は **韋**。

緯 は、“行ったり来たりする”意味の **韋** と **糸** との会意形声字で、はた(織機)を織る時“行ったり来たりする糸”つまり“横糸”のことです。たてに張られた「経」に対して「緯」が行ったり来たりして織られ、布になります。地球上の位置を示すのに、南北に両極を貫く線を引き、イギリ

スのグリニッチ天文台を通過する線を0度とし、360度に分かって、これを経度と呼びます。この経度を示す線が「経線」です。この経線に直交する線が「緯線」で、赤道を0度とし、両極まで90度に分かって、これを緯度と呼びます。地球上の位置は、この「経緯度」によってはっきりと示されるわけです。

「経緯」は、“縦糸と横糸”という意味ですが、“事の次第”“いきさつ”という意味に使われます。

衛 は、行と **韋** との会意形声字です。行の古い形は **行** で、道の象形です。道の象形により、“歩行”の意味を表わした指事字です。従って、**衛** は、“道を行ったり来たりする”のが本義の字で、つまり、英語のパトロールに当たります。これは、「警戒」することを意味していますので、“まもる”の訓があるのです。「警衛」は行ったり来たりして警戒することです。その任に当たる兵隊が「衛兵」です。音は、¹ **韋** が強く発音されてエイとなりました。

葦 は、“¹ **韋**”と呼ばれる草で、**韋** と **艹** との単なる形声字です。和名は“あし”ですが、これは“^あ 悪し”に通ずるので“よし(善し)”とも呼ばれます。^{よし} 「**葦**の^{よし} ずいから天井のぞく」(いろはガルト)。